# もりこう

Issue on June 1, 2018

VOL.48

発行所：大森学園同窓会
大田区大森西3-2-12
大森学園高等学校内
お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
FAX 03(3766)0314
Mail：info@moriko-kai.jp
URL：http://www.moriko-kai.jp/
発行責任者：大谷正勝
編集責任者：広報委員会
題　字：山崎正男先生

## 祝 同窓会（もりこう会）発足65周年

**もりこう会発足65周年にあたり、その間のもりこう会ならびに母校の動向概要を表にしてみました。**

★ もりこう会小史　　平成30年6月現在

| 年号・年次 | もりこう会 | 大森学園（旧大森工業）高等学校 |
|---|---|---|
| 昭和28（1953）年 | 同窓会発足総会開催・初代会長 遠藤源吾選出 | |
| 昭和29（1954）年 | | 6月 学校長 山口萬先生退任（昭和22年7月～）<br>同 学校長米澤勇作先生就任 |
| 昭和37（1962）年 | | 3月 学校長 米澤勇作先生退任<br>4月 学校長 早坂朝太郎先生就任 |
| 昭和39（1964）年 | 同窓会会報・創刊号発行 | |
| 昭和41（1966）年 | 第二代会長 友野藤男選出 | |
| 昭和43（1968）年 | 同窓会会報名を「もりこう」に改め、第2号発行 | |
| 昭和47（1972）年 | | 情報技術科を設置 |
| 昭和49（1974）年 | 母校内にもりこう会事務局を設置 | |
| 昭和52（1977）年 | | 3月 学校長 早坂朝太郎先生退任<br>4月 学校長 野原隆治先生就任 |
| 昭和59（1984）年 | | 実習棟（4階建）・第2体育館完成 |
| 平成元（1989）年 | 会員名簿を発行<br>母校創立50周年を記念して総会後「もりこう会」主催祝賀会を母校体育館で開催 | 創立50周年記念式典を挙行 |
| 平成2（1990）年 | 役員会内に総務、財務、広報の3委員会を設置<br>活動の活性化を図る<br>同窓会記念事業として「潮の光」奨学制度を設立する | 3月 学校長 野原隆治先生退任<br>4月 学校長 米澤正倫先生就任 |
| 平成6（1994）年 | 各クラス幹事出席のもと拡大幹事会開催 | 総合技術科を設置 |
| 平成11（1999）年 | 母校創立60周年を記念して総会後「もりこう会」主催祝賀会を母校第二体育館で開催<br>会員名簿（平成11年度版）発行 | 創立60周年記念式典を挙行 |
| 平成12（2000）年 | | 3月 学校長 米澤正倫先生退任<br>4月 学校長 井上皓司先生就任 |
| 平成14（2002）年 | 第三代会長 菊池良幸選出 | |
| 平成17（2005）年 | | 大森工業高等学校を大森学園高等学校と改める 普通科を設置<br>8月・新校舎（8階建教室棟）が完成 |
| 平成18（2006）年 | | 9月・新校舎（講堂棟）が完成 |
| 平成19（2007）年 | | 普通科共学スタート・新校舎（部室棟）が完成 |
| 平成21（2009）年 | 母校創立70周年を記念して大田区産業プラザ（PIO）で総会後「もりこう会」主催祝賀会を開催 | 創立70周年記念式典を挙行 |
| 平成22（2010）年 | 第四代会長 大谷正勝選出 | 3月 学校長 井上皓司先生退任<br>4月 学校長 畑澤正一先生就任 |
| 平成23（2011）年 | | 合宿所【有隣寮】新築 |
| 平成25（2013）年 | もりこう会発足60周年 | |
| 平成30（2018）年 | もりこう会発足65周年、現在に至る | |

# 本年度総会の開催にあたって

もりこう会 会長　大谷 正勝

会員の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。日頃は同窓会活動に温かいご支援、ご協力をいただき有難うございます。

さて、母校は前身の工業学校から戦後の学制改革「昭和23年（1948年）」で新制の高等学校「大森工業高等学校」となり、以来工業界を中心に多くの人材を送り続けております。母校はその後、平成17年に普通科を新設、校名を「大森学園高等学校」に改め、2年後には普通科は共学となり、今日では工業、普通の両科を擁する学園でありますことは、会員諸氏ご承知の通りであります。

同窓会「もりこう会(以下本会という)」は、母校の工業高校としての永い校歴から現在、会員構成はその大半が男子でありますが、現況の学科構成、在籍数から推察すると徐々に女子の割合が高まっていくものと思われます。

この状況から今後の同窓会活動は、様々な面から検討の余地ありと考え、鋭意役員会で話し合いを進めております。この結果、本会の目的とする会員間の親睦を図るという趣旨を念頭に、ひとりでも多くの会員の皆さんに様々な活動に気軽に参加いただけるよう、この度も知恵を絞ってみました。(開催要領は20ページをご覧ください)

その一つは会員間の世代を超えて交流、親睦を深めてもらう総会等の開催です。同窓諸兄ご承知のとおり、ここ2年程は諸般の事情で総会、懇親会等のすべて、あるいはその一部を母校を離れ催しました。これに対して会員の方々からは母校開催を望む声が大きく、かつ一人でも多く会員の皆様に足を運んでいただくためにも、さらに先生方に出席頂くにも母校開催がベストと考え、この度は総会等すべてを母校開催に回帰することにしました。

ところで「もりこう会」は今春、発足65周年を迎えました。大変お目出度いことでありこの節目の年に相応しい記念の催しをと考え、総会に引き続き落語会を開催することとしました。参加の皆さんには大いに笑い、日頃の疲れを癒して頂ければと思っております。

さらに懇親会には食事、飲物に加え、新たな試みとして女性会員に喜んでいただけるようスイーツ類を用意することにしました。これは甘党の男性会員にも歓迎されるものと期待しております。

尚、開催当日も校内では生徒さんが遅くまで勉学に励んでおりますので、懇親会ではアルコール類をお出しすることはできません。辛党の皆さんには事情賢察のうえ、ご理解をお願い致します。

このような企画のもとで、役員一同開催に向けて着々と準備を進めております。

当日は総会、落語会、懇親会のいずれの会場も、会員の方々で埋め尽くされることを願っております。

二つ目は、会報の充実であります。会報は母校と卒業生を結び、母校の情報と会員間の交流状況等をお伝えする大切なツールであります。恩師との交流、クラス会の開催や部活報告など、あるいはOB、OG皆さんの近況報告など、紙面に多彩な情報を満載できるよう今後とも制作には力を入れていきたいと思っています。会報の充実を図るには会員各位のご協力が不可欠です、役員一同、皆さんからの原稿を心からお待ちしております。

## 「もりこう会」について

特に若手会員の皆さんに本会への理解を一層深めていただくために、この機会に活動状況等をお伝えしたいと思います。

本会はこれまで2万人を超える卒業生を輩出した大森学園（旧大森工業）高等学校の同窓会組織として、昭和28年先輩たちにより旗揚げされました。

今日、会員は80歳を越える大先輩から本年3月卒業の若手の方まで、幅広い世代、年齢の方々で構成されております。本会の目的は会員間の親睦を図ることに加え、母校の発展に協力することです。これには毎年度、種々の教育活動に支援のお力添えを行っております。その他、活動実績としては学園祭での卒業生コーナーの設置、運営ならびにキャリアセミナーへの協力、毎年お招きを頂いております入学式、卒業式、体育祭などへの出席などであります。

役員一同、これからも会員の皆さんの付託に応えて活発に活動を展開していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

尚、同窓会活動を末永く継続していくには、これまで同様学園のご協力を頂きながら、活動を先輩から後輩へと引継いで行かなければなりません。「もりこう会」の灯を絶やさぬためにも、活動を支えて下さる役員候補者に多くの会員が手を挙げてほしいと願っております。役員候補者には本会活動に実質的に参加できる方であれば、年齢、世代、男女いずれも問いません。ただし、年6～7回程度の役員会出席が可能で、出来るだけ長く活動に携わっていただける方にお願いしたいと思います。現役世代の方を中心に我こそはという方、是非お声掛け下さい。

不明な点については、もりこう会事務局（大森学園高等学校内）（電話：03-3762-7336）へお問い合せください。

# 明治維新150年

校長　畑澤正一

「もりこう会」の皆様には日頃より大森学園高等学校の教育にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。今後も本校の教育向上のため多大なるご支援を期待するところです。

２０１８年は明治維新からちょうど１５０年目になります。明治維新での急激な変革は政治・経済や文化・社会生活を大きく変えるものでした。また、現代社会が形成されるうえでも大きな影響を与えたと思われます。明治維新は狭義には江戸幕府が崩壊し、天皇を中心とする新政府が成立するまでの過程を指します。明治元年は１８６８年10月23日（旧9月8日）ですが、前年の慶応3年の大政奉還、王政復古の大号令、鳥羽伏見の戦い、五箇条の御誓文なども含め、広義には明治政府が行った廃藩置県、秩禄処分、地租改正など様々な改革が含まれます。

明治維新以来、日本の歴史教育は基本的に薩長史観に基づいて行われてきました。薩摩長州の側からの歴史解釈ということであり、「勝てば官軍」「勝者が歴史をつくる」ということであろう。過去の歴史を見ても繰り返し行われてきたことではあろうが、勝者がすべて正しいはずがなく、敗者の側にも正義があったはずである。今、１５０年という歳月を経て、客観的に見直す時期になってきたのかもしれない。いわゆる薩長史観に対する反薩長史観とでもいうか。例えば、幕末に幕府が意外に現実的な開国策や近代化策をとっていたことは評価に値する。薩長は「攘夷」を掲げて政局を動かし、権力奪取後はあっさりと「開国」に転じている。その中で、会津藩などは賊軍として討伐され、徹底的に叩かれ、その後も長く不当な扱いを受けてきました。

明治時代の初期は「富国強兵」「殖産興業」を推進していくわけですが、明治政府が実行した政策の根幹となった思想が、「脱亜入欧」である。「脱亜論」も含め、誰が説き、どのような経緯で作られていったのか。現在の日本の根幹にもなっていると思われるので、改めて考えることが必要であろう。

政府は記念事業に積極的で、「大きな節目で、明治の精神に学び、日本の強みを再認識することは重要だ」と談話発表しているが、明治維新のあり様に異議を申し立てる書籍なども多く見受けられるので、私自身も多方面から勉強したいと考えています。

## 米澤理事長先生を囲んで

毎号、理事長先生には寄稿頂いておりますが、来年は学園創立80周年の年にあたり、その準備等から今号はご活躍中のお姿の掲載のみと致しました。

●撮影日
平成30年2月27日（火）
母校卒業式
中央　米澤正倫先生
左　大谷正勝会長
右　渡辺亮副会長

## 特集　部活動に関わりのある卒業生

### 平成二十五年機械科卒業　野球部元部員　竹村光司

今年の4月から都市対抗野球大会出場常連の強豪、東京ガス野球部に竹村光司さんが入団しました。竹村さんは本校大森学園野球部で3年次キャプテンを努め、1番セカンドとして活躍し、東東京大会でベスト8にチームを導きました。その後、中央学院大学に進み、3年次に全日本大学野球選手権大会に1番ショートとして出場し、準優勝に貢献しました。また、千葉リーグでベスト9にも選ばれ、4年次にはキャプテンを務めました。最後に本人のコメントも掲載致します。機会がありましたら竹村君に応援・御声援宜しくお願い致します。（顧問　和泉隆）

**【本人コメント】**

中央学院大学で最初はなかなか活躍できなかったので、どうすれば良いかを考えました。そこでウェイトトレーニングと守備練習は欠かさず行うようにしました。それを続けていると自ずと守備や打撃に結果が付いてくるようになりました。普通に周り

の選手と同じ様に練習していては絶対に結果は出なかったと思います。

これから先も社会人で野球を続けていくので大森学園で学んだこと、中央学院大学で学んだことを活かして日本一という大きな目標を成し遂げたいと思います。

## 平成十九年総合技術科卒業
## サッカー部元部員　根日屋 諒

私は現在、サッカー部の外部コーチとして活動しております。サッカー部員に対し、サッカーの技術面の指導をメインに行っています。私自身、大森学園高等学校サッカー部のOBです。指導者として私が培ってきたことや、選手としての知識や経験を少しでも役に立てることができればと思い、外部コーチとして活動しています。

**▼外部コーチだからできること**

私自身、他校の職員として勤めています。学校の先生は、生徒や保護者、学級、学年、学校運営など、多くの事に目を向けなくてはなりません。しかし私は、大森学園サッカー部においては外部コーチです。外部コーチにしかできないことも多くあります。ピッチの中から、選手の生活を感じることもそうですし、毎日一緒にいてはわからない些細な変化も、ピッチ内での関係だからこそ感じることのできるものであると思います。

**▼培ってきたものを後輩へ**

私は、大森学園高等学校を卒業し体育大学に進み、大学サッカーに身を投じました。当時、大森学園から大学サッカーへ進む卒業生はとても少なかったのですが、私にとっては、この決断が大きな転機だったと思います。大学サッカーは毎日が勝負の世界でした。プロを目指すものや、才能にあふれている選手ばかりです。私の進んだ大学は、出身校もトップレベルの人がほとんどでした。そんな中で、「出身校はどこ？」と聞かれることが何度もありました。高校時代に良い大会結果を残していなかった私にとって、劣等感のある質問でした。しかし、胸を張って「大森学園」といえるよう、勝負の世界に身を投じたことが、私の母校に対するアイデンティティーにつながっていると思います。

**▼OBとしての想い**

私は、人と人とのつながりがとても大切なものだと思っています。しかし、恥ずかしながら私は級友のほとんどと連絡を取っていません。また、会う機会も作れていないのが現状です。そこで大森学園のOBとして、卒業生の集まる場を提供できないかと考えています。人生の中で大切な時間を過ごした母校を卒業したら終わり、というのは少しさびしい気がしませんか。「大森学園」というつながりを、より良い形で皆様と共有できるコミュニティを作れるよう、提案したいと考えています。卒業生だけではなく、在校生と卒業生のつながりを作る活動も、これから行うことができたら良いなとも思っています。

大森学園は、多くの部活動が活発に活動していますので、後援会や保護者会、クラブOB会などで連携してつながりをもつのも良いのではないでしょうか。これからも、多くの方々に貢献できるよう邁進したいと思います。

## 平成二十二年電気科卒業
## 鉄道研究部元部員　細川 倫史

私たちが活動していた鉄道研究部は、運動部のような大会へ出ることも無く、活動内容は、わかりにくく在校生時代に何とか出来ないかと思っておりました。

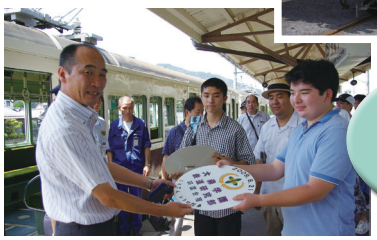
毎年、夏季休み中にJR線全線乗り放題の青春十八切符を使い日本各地を巡る合宿をしており、三年生の時は、中国・四国方面を計画しておりましたが、部員が香川県にある高松琴平電鉄（ことでん）で列車を貸し切れるという事を見つけ、四国・高松へ向かう事となりました。その際、今まで考えていた事を実行しようと思い、丁度創立七十周年と合わせて記念列車を仕立てました。直前まで、貸切る車両や先頭部へ付けるヘッドマーク（看板）を考え、当日貸切列車が高松築港駅に入線する際、見えた瞬間から夢中でカメラのシャッターを切った事を覚えています。私たちの代が卒業後、全国高等学校鉄道模型コンテストへの出場のきっかけを作れ、良かったと思っています。

その後は、卒業生として二回目・三回目の貸切列車にも参加し、電鉄会社の担当者さんにも顔を覚えてもらえました。

今後も創立八十周年を来年に控え、私たち卒業生も応援出来ればと思っています。

▲平成21年8月21日　高松琴平電気鉄道　仏生山駅車両工場

2両編成の貸切車両を撮影の為に切り離しをして頂きました



終点琴平駅で看板の受け渡し

# あの先生は今

## ゴーーーール

矢部　一紀

平成三年に大森工業高等学校に英語科教諭として就職し、早いもので今年度定年ということになりました。私はかねてからPractica-な英語を授業で実践したいと考えていました。その基礎となる学習、英検、リスニング英検の受検、コンピュータを利用した英語の授業等を実践する環境が与えられ、英語科全員でそれらの指導に当たりました。また、アメリカ、オーストラリアへの海外語学研修、約一年間のアメリカからの留学生の受け入れ等、Practica-な英語を実践するには最高に良い環境でした。私自身かなり勉強をさせられた毎日でした。

それら英語科の取り組みを東京私学教育研究所主催で研究発表をする機会が与えられ、これらの成果として新聞、教育関係の雑誌そして英検の機関紙に取り上げられました。英語科のみならず学校全体でバックアップしていただいたことを感謝しています。卒業した生徒たちを含み本校生徒皆が英語の重要性に早く気づき、学習してくれることを願うばかりです。

大森工業高等学校は、改組発展し大森学園高等学校と名称を変え、工業科に加えて、普通科、そして普通科は男女共学となりました。そのような時、私は入試広報としての仕事が与えられ、ほぼ毎日午後から生徒募集のため出張するようになりました。初めての経験であり先輩の先生方に色々ご指導いただき緊張の毎日でした。生徒との接点は少なくなりましたが、広報の仕事からも得るものが多く、数年経つうちには新たな人間関係もできて、やっと仕事の面白さがわかってきたような気がしました。授業をすることとは全く関係ありませんが、学校としてはとても大切な仕事です。その仕事を通して、新たな自分を発見できたと思っています。

## 軌跡

椚山　良一

卒業生の皆様こんにちは。私自身母校に勤務をして早、四十五年になりました。もりこう会事務局を担当して同じ年月を重ねてまいりました。ご承知の事と思いますが、私自身も母校卒業生として昭和四十八年三月電気科を卒業し、母校電気科助手として勤務しました。助手の間、夜間部のある大学に進学し学部は工学部電気工学科を専攻し、助手五年間の経験が認められ、母校の専任教諭として昭和五十三年四月先生として新たな気持ちでスタートしました。当時の母校はご承知の通り工業高校男子校で制服は学ラン・学生かばんと言った雰囲気で新任早々2年電気科一組のクラス担任を命ぜられ毎日が先輩の先生方の指導を仰ぎながらの新米先生でした。部活動も当時山岳部（ワンダーホーゲル部）があり部員も多く最初はお手伝いのつもりで参加していましたが、山行を重ねて行くうち面白くなり、大自然に触れ開放感や自然の美しさに魅了されました。丹沢新人歓迎や沢登り、夏合宿と経験を積み、文部省主催の登山研修会にも参加させていただきました。その頃から何故か「山男」でなく「雨男」と言われる様になり、校外教室や修学旅行などで天候が悪くなると小さくなっていました。（私だけではないと思うのですが。）さて、話が変わりますが現在は鉄道研究部の顧問として永く生徒と接しております。特に夏合宿では毎年卒業生の方々がその日を楽しみに参加し生徒達の面倒を見ていただき大変助かっています。

母校の工業科はコース制になり一年生の専門教科は全員共通に学び、二年生より機械・電気・情報技術のコースへと進級します。その中で電気技術コースの生徒は第二種電気工事士試験を全員受験し資格を取得しています。

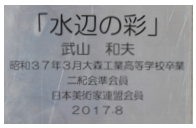
また、毎年行われる「高校生ものづくりコンテスト」電気工事部門にも積極的に参加させ、都大会優勝や関東甲信越地区電気工事コンテスト東京都代表選手として出場するなど競技大会にも積極的に取り組み成果をあげています。平成二十三年には全国大会出場を果たし我ながら生徒を讃えたいと思います。現在六十三歳を迎え、心身とも衰えを感じる自分自身ではありますが、これからも生徒と接する時間を大切に指導して行きたいと考えております。

# 表現すること

武山　和夫

みなさんこんにちは。お元気にご活躍のことと思います。七年前、もりこう会報に原稿を寄せて以来です。この年は東北地方に強い地震があったときです。いつの間にかこんなに月日が経ったのかと改めて感じるのと、こうやって元気にいられることがとても嬉しい限りです。今、お隣韓国の平昌（ピョンチャン）で冬季オリンピックが開かれおり、いやが上にも自国の選手に声援を上げざるを得ません。私達はいろいろな表現方法で、自己の確立を目指します。スポーツもそのひとつで、人間の深部に潜む闘争心や競争心もかき立ててくれます。特にウインタースポーツは雪と氷が相手ですから日常からとてもかけ離れた状況を見せてくれます。雪の山肌を滑走する時速は90㎞、ジャンプ台から飛び出し、緩慢に失速しながら100m以上の距離に達するなどとても人間わざとは思えません。その勇気とチャレンジ精神に敬服するばかりです。

私は、大部分の少年と同じように、道具や工具を使って物を作ることがとても好きでした。ノコギリで左親指の付け根を傷つけた跡が今でもあります。いつの頃からか、絵を描くことに気持ちを傾けるようになりました。三次元の空間にあるものを、二次元の平面に表現することは、種々の制約がありますが、情報の伝達手段としてはこの上なく強力なものです。歴史上のひとこまの喧伝、権力者の権力の誇示や、宗教上の意思の伝達など、大いに貢献してきました。その様式はいろいろなものと融合して今日に至っています。その中で好きな画家と作品の一部を上げてみます。十七世紀オランダのマインデルト・ホッベマの「ミッデルハルニスの並木道」。実際の風景でないポプラ並木を透視図法で構成し、人物と家を点在させた作品は、ひとこと、とてもいいです。一八世紀イギリスのジョン・コンスタブルの「干し草車」、現代アメリカのアンドリュー・ワイエスのアクリル画、戦後フランスに帰化せざるを得なかった藤田嗣治の陶器の肌にも似た絵肌の作品群。折に触れてこれらの作品に接して見てはいかがでしょうか。決して時間のむだにはならないことを、確信します。




現在私は、風景を対象に油絵を描いています。自然のありさまを画面に留めることに、この上ない達成感を感じています。このたび学校のご好意により、130号（約二畳分）の作品を玄関に展示させて頂きました。秋が訪れた池畔の姿を描いたものです。作品の額はもりこう会からの援助を受け額装しました。また、作品の搬入の際は、先生方にお骨折りをお願いし、いろいろご配慮頂きましたことに、この紙上を借りまして、重ねてお礼を申し上げます。

作品が多くの生徒と来校された人たちの目に止まり、いくらかの感動が与えられればこの上ない喜びです。

# お元気ですか！

山下　博

卒業生の皆様、お元気でしょうか？

前回は退職して間もない頃に原稿依頼があり書かせていただきました。その当時はまだまだ元気があり、退職後の健康維持と生活習慣病予防を兼ね「元バレー部顧問」としてクラブの練習に参加させていただくことを決め、現在も元気に学校へ足を運んでおります。

男子部員は二十三人の大所帯で切磋琢磨しており、女子部員は四人と少ないながらも勉学と両立しながら練習に励む姿を、退職してからも生徒の成長を見届ける事が出来るのは、何よりも有難い事と感じています。

あれから早くも五年がたち、現在はボールを持って部員と動き回るよりも、彼らとの会話を楽しむ時間の方が増えましたが、みんなの様子を見ながら大きな声で応援しています。

応援といえば、平昌オリンピック。皆さんも観戦し、感動した事と思います。

怪我や挫折で目標を失いかけた選手が、つらいリハビリに耐えて記録を打ち出す姿、練習を積み重ねチームワークでメダルを勝ち取った時の笑顔を見ると、素晴らしい結果の裏には選手の努力だけでなく、家族や応援する周囲の方の支援があってのこそと感じました。

「メダルを取ることにより前向きになれる」とあるメダリストが話していましたが、大きな目標を掲げ、さらに上を目指していくことは素晴らしい事です。

私の現役の頃とは違い最近の生徒たちは若いうちから目標を掲げ、考え行動する力と結果を求められるせいか、時間の流れを早く感じているように思えます。

在校生の皆さんも卒業生の皆さんも、若い貴重な時間を大切に、強い意志を持って目標に向かって進んでいってほしいと思います。

私ももちろんこれからも元気にバレーボールを楽しんでいけるよう、2020年二度目の東京オリンピック開催を励みに頑張ります。（一度目はテレビ観戦でしたので）

# 平成29年度進路報告

進路指導部長
尾島　覚

もりこう会の同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝で、各方面でご活躍のこととご推察申し上げあげます。進路指導部より、平成29年度卒業生の進路状況をご報告させていただきます。

今年は全体で388名が卒業しました。就職18%、4年制大学65%、専門学校17%という結果でした。普通科は272名の生徒が卒業しました。4年制大学83%、短大2%、専門学校14%、就職1%という結果でした。（図1）工業科は116名の生徒が卒業しました。就職57%、専門学校25%、4年制大学18%という結果でした。（図2）主な進学先は表1をご覧ください。

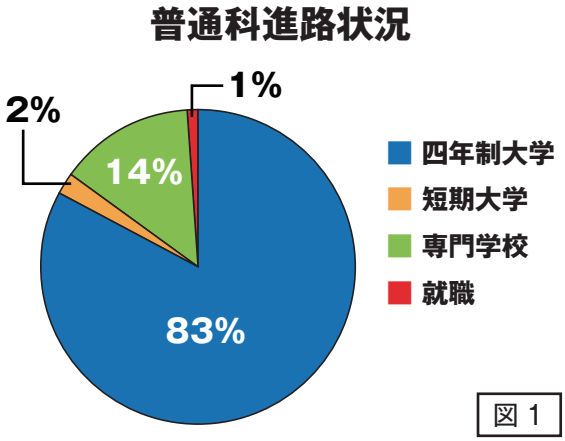



図1

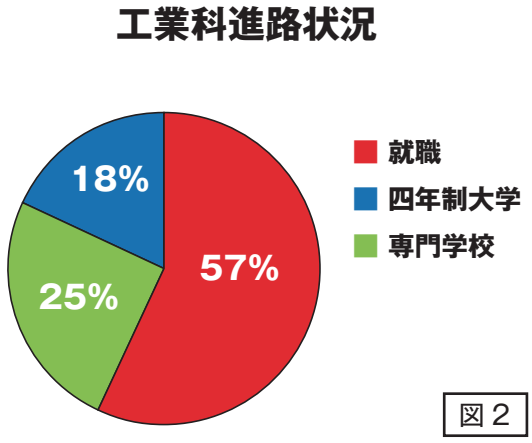



図2

今年は国公立大学（大学校を含む）に11名の合格者が出ました。本校から初めて東京工業大学に合格しました。また、早慶上理、MARCHなどに合格したと報告を受けております。就職では、機械関係でジャパンマリンユナイテッド、東芝エネルギーシステム、自動車関係で日野自動車、電気関係で関電工、関東電気保安協会、鉄道関係で東京都交通局、その他として警視庁や特別区職員などへの合格者が出ています。

今年度も“生徒のための進路指導部”として、生徒たちの夢実現の手助けをしていきたいと思っております。

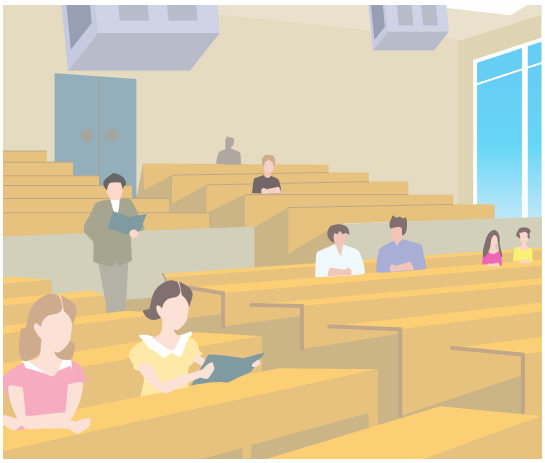


表1

| 国公立大学 | 人数 |
|---|---|
| 岩手大学 | 1 |
| 山形大学 | 1 |
| 茨城大学 | 2 |
| 埼玉大学 | 1 |
| 東京工業大学 | 2 |
| 東京海洋大学 | 1 |
| 横浜市立大学 | 1 |
| 信州大学 | 1 |
| 高知大学 | 1 |

| 私立大学 | 人数 |
|---|---|
| 早稲田大学 | 1 |
| 慶応義塾大学 | 1 |
| 上智大学 | 2 |
| 東京理科大学 | 7 |
| 明治大学 | 7 |
| 青山学院大学 | 1 |
| 立教大学 | 3 |
| 中央大学 | 6 |
| 法政大学 | 4 |
| 日本大学 | 22 |
| 東洋大学 | 9 |
| 駒沢大学 | 6 |
| 専修大学 | 8 |

# 平成29年度 クラブ活動報告

## 運動部

### ■サッカー部

平素よりサッカー部の活動にご理解ご協力頂きましてありがとうございます。チームを代表しまして厚く御礼申し上げます。

第96回全国高校サッカー選手権大会東京都予選の結果をご報告致します。今年度は東京都ベスト8まで勝ち上がり、全国大会最多優勝回数（9回）、全国選手権最多出場回数（34回）を誇る王者帝京高校と東京都高校サッカーの聖地「西が丘」出場をかけて戦う事となりました。

10月29日（日）に実践学園高尾総合グラウンドで行なわれました決戦は台風22号の接近に伴う影響を受け、至るところに水たまりが出来るピッチコンディションの中での戦いとなりました。降りしきる大粒の雨、身に染みる寒さを、選手権独特の熱気がそれを上回る空気を作り出し会場全体を包み込む中で、定刻12時にキックオフのホイッスルが鳴り響きました。我々は2次予選組合せが決まった8月29日から、2か月後にやって来るこの決戦に備えて、主将秋元　悠真（3年普通科進学コース・茅ヶ崎松林中出身【シュートジュニアユース】→國學院大學進学）を中心に最高の準備を進めて参りました。※副将鈴木　将太（3年工業科機械コース・茅ヶ崎市立松林中出身【シュートジュニアユース】→帝京大学進学）、副将坂　隼（3年普通科普通コース・大田区立大森第三中出身【スポルティング品川】→帝京大学進学）。誰もが王者帝京高校の圧勝を疑わなかったでしょうが、本校サッカー部員は戦前より自信に満ち溢れておりました。ここまで6回戦（5回）を26得点、1失点で勝ち上がって来た自信と、これまでの取り組みに対する生徒同士の揺るがない信頼関係がそれを生み出していたのです。

前半序盤は一進一退の攻防となり、激しく中盤でボールを奪い合うまさに肉弾戦となりました。お互いに水たまりで止まるボールの動きに手を焼きながら何とか相手のゴール前にボールを運ぼうとします。しかし雨で水を大量に含んだボールでロングボールを蹴るには相当の技術と順応性を要します。次第に帝京が本校のゴール前までボールを運べるようになり、あわや失点という場面を2度3度と作られましたが守護神　河内　友輝【3年工業科機械コース・横浜上の宮中出身→明星大学進学】を中心に集中を切らさず体を張ったプレーでゴールを割らせません。すると前半28分、終始徹底して攻め続けた左サイドを平木　拓海【2年普通科普通コース茅ヶ崎第一中出身（シュートジュニアユース）】が突破、一度は水たまりで止まったボールに誰よりも速く反応し、ゴール前にクロスを上げると、2次予選ここまで得点の無かったフォワード板垣　海里【3年工業科機械コース・品川浜川中出身（東京ベイＦＣ）→日野自動車就職】がペナルティエリア内で相手と競り合い、振り向きざまに右足を降り抜きました。相手ゴールキーパーの頭上を越えたボールは、美しい軌道を描いてスローモーションの様にサイドネットに吸い込まれました。会場全体が地鳴りの様にどよめき、板垣を中心に歓喜の輪が出来上がりました。喉から手が出る程欲しかった先制点を、相手が攻勢に出ようとしたまさに出鼻をくじいて強奪し、完全に流れを引き寄せる展開へと持ち込みました。生徒たちは歓喜の輪を解き放つと、誰もが容易に想像できるこの後の帝京の猛攻に備えるべく、瞬時に切り替え守備位置につき、確認の声を掛け合っていました。この生徒たちの声の内容を聞いて「よし、まだ我慢できる」と確信しました。案の定、帝京の攻撃は単発となり本校は落ち着いた対応で相手にペースを握らせないまま前半終了となりました。ハーフタイムにはもう一度攻め方・守り方を確認し、気持ちで負けない、下がらないことを強調し、最後は「歴史を作ろう」と送り出しました。結果から言えばもっとこで的確に指示を出せていればと悔やまれます。※ワンプレーで同点弾を許してしまったので、具体的に言えば前半からボールへの寄せ方が気になっていた。

後半も前半同様の展開となり、戦前より意識して練習していたセットプレーでの得点を期待しましたが僅かに得点には至らず。膠着状態となってこれでゲームセットも目指せる時間帯となりつつあった後半22分（残り18分）、僅かな守備の綻びから、相手に見事なミドルシュートを叩きこまれてしまいました。さすが帝京と言わざるを得ない得点でしたが、もちろんまだまだ同点となっただけ、勝利を目指して本校生徒は懸命に足を動かし、決勝点を目指しましたがゴールは割れずに前後半終了、勝負の行方は延長戦にもつれる事となりました。延長までの時間は指示よりも、気持ちの面が優先となってしまい、結局生徒たちは戦術的な変化なく戦う事となってしまいました。これが全ての敗因です。延長前半で相手に見事なドリブルからシュートを決められ、腰の引けた状態となり、セットプレーからディフェンダーの背後に飛び込まれ、これまた見事なダイビングヘッドで試合を決められてしまいました。連続得点は本当に強いチームかあるいは相手が油断している時や気持ちが下がっている時にしか生まれません。本校生徒は決して油断していた訳ではありませんが、ラインは下がってしまいました。いわゆる「腰が引けた状態」です。これを見逃さない帝京が強かったという事になります。しかし一生懸命にやっていても相手

の圧力に自然とそうなるものであることは私自身選手の経験もありますので分かり切っていたことです。ハーフタイムや延長前に必要以上に多く指示を出さずに、大切なポイントだけを生徒にしっかりと「伝える」作業が出来ませんでした。ここに前半の内容を多く書け、後半や延長の内容が少ないのは、ただ私が願っていただけで的確な指示や判断が出来なかった事をあらわしています。後半途中まで予定通りであり、想定の範囲内でしたが、失点する少し前から想定外の事が起こり出しました。その綻びを直さずに広がらない様に願っていただけなので破綻しました。もちろん相手もその綻び（隙）を見つけて破ろうとするのですから尚のことです。

試合結果　前半1－0　後半0－1
延長前半0－2　延長後半0－1
計1－4　敗北

「気持ち」は大切です。「気持ち」がなかったら絶対に勝てませんし、上手になりませんし、見ている方たちに感動は与えられません。しかし「気持ちだけ」で勝つことは出来ません。私は最後の一番大切な時に「それ」にすがってしまいました。

荒天の中、更には遠方にも関わらず保護者の方々、OB、OB保護者、本校教職員、野球部員をはじめ在校生など本当に多くの方にご来場頂きました。また会場にどうしても行けないと連絡を下さった方々、関係する全ての方々のご声援のお陰で、生徒たちは王者帝京高校に対し臆することなく戦うことが出来ました。また今回、学校からはサッカー部に対する様々な配慮をして頂きました。この学校の一体感を作り続ける事は我々サッカー部が、いや本校運動部が共に切磋琢磨し、目指すべき使命であると考えています。

間違いなく本校3年生は「西が丘」に立つ資格を十分に持っていました。監督にその資格がなかっただけです。しかしこのまま負け犬で引き下がる訳には行きません。私がその資格を得られれば、3年生の背中を見続けて来た2，1年生は必ず悲願を達成できます。あの「18分間」を取り戻す為に1年かけて取り組んで行きたいと思います。そして関係する全ての人々に勇気とパワーを与えられるようなチームになって再びこの舞台に帰って参ります。終わりに最後まで学校の看板を背負って懸命に戦ってくれた3年生と応援して下さった皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

第96回全国高校サッカー選手権東京都大会

▼一次予選（Cシード）
2回戦　16－0　VS　都立府中工業
3回戦　3－1　VS　日大三
4回戦　1－0　VS　都立保谷
（ブロック決勝）

▼二次予選
1回戦　4－0　VS　明大中野
2回戦　2－0　VS　東亜学園
準々決勝　1－4　VS　帝京
東京都Bブロックベスト8敗退

【登録メンバー】
①GK　河内　友輝　3年
（横浜市立上の宮中）
②DF　坂　隼　3年
（大田区立大森第三中・スポルティング品川）
③DF　高原　力斗　2年
（大田区立南六郷中・FORAZ'02）
④DF　土屋　政悟　2年
（大田区立大森第七中・ヴィクトワール）
⑤DF　比嘉　直人　2年
（横浜市立生麦中・横浜FC鶴見）
⑥MF　渡邊　真白　2年
（大田区立南六郷中・大豆戸FC）
⑦MF　掛村　勇歩　3年
（茅ヶ崎市立中島中・シュート）
⑧MF　山田　恭瑚　2年
（茅ヶ崎市立鶴嶺中・シュート）
⑨FW　板垣　海里　3年
（品川区立浜川中・東京ベイFC）
⑩MF　秋元　悠馬　3年
（茅ヶ崎市立松林中・シュート）
⑪MF　平木　拓海　2年
（茅ヶ崎市立第一中・シュート）
⑫DF　白鳥　琉生　1年
（茅ヶ崎市立第一中・シュート）
⑬MF　安藤　翔　1年
（藤沢市立赤羽根中・シュート）
⑭MF　吉川　諒　3年
（大田区立大森第十中・ジョカトーレ）
⑮MF　遠藤　力哉　1年
（横浜市立早渕中・横浜FC鶴見）
⑯MF　山元　玲司　2年
（大田区立第三中・FCインテリオール）
⑰MF　和島　淳介　1年
（藤沢市立湘洋中・シュート）
⑱FW　岩本　裕也　3年
（横浜市立十日市場中）
⑲FW　鈴木　将太　3年
（茅ヶ崎市立松林中・シュート）
⑳FW　梅　正志　1年
（川崎市立宮崎中・横浜FC鶴見）
Sub　GK　村野　吏駆　3年
（大田区立大森第二中・ジョカトーレ）
Sub　DF　和泉　弾也　3年
（江戸川区立清進第一中）
Sub　DF　渡部　和作　3年
（大田区大森第三中・FC駒沢）
Sub　DF　廣原　奎仁　2年
（大田区立蓮沼中・東京チャンプ）
Sub　MF　間宮　玄　2年
（横須賀市立不入斗中・ライオンズSC）
Sub　MF　藤井　海人　1年
（綾瀬市立綾瀬中・シュート）
Sub　FW　星　隆之介　3年
（江戸川区立東葛西中）

3年GK　中山　将吾　3年
（葛飾区立水元中・SKオンゼ）
3年DF　坂口隆一郎　3年
（横浜市立矢向中・KAZU SC）
3年MF　加賀谷春斗　3年
（江戸川区立深川第七中・グッドリーU15）
3年MF　木村　龍馬　3年
（江戸川区立松江第一中・エルダー）
3年FW　小澤　大　3年
（横浜市立篠原中・横浜FC鶴見）
3年FW　大橋　美仁　3年
（川崎市立南大師中）
マネージャー　堀　有紗　3年
（川崎市立臨港中）
マネージャー　東　美羽　3年
（大田区立貝塚中）
マネージャー　坂下　彩夏　1年
（川崎市立南大師中）

## ■野球部

昨年夏からの公式戦での結果を掲載致します。

▼選手権東京大会
7／10　2回戦　6対5　錦城学園
（延長10回）
7／15　3回戦　7対0　駿台学園
（7回コールド）
7／17　4回戦　2対3　東海大高輪台
（東海大高輪台は準優勝）

▼秋季大会
9／16　1回戦　9対4　芝浦工大高
代表決定戦　0対10　関東一
（5回コールド）

▼春季大会
3／17　1回戦　12対2　自由ヶ丘学園
（5回コールド）
3／18　代表決定戦　6対4　淑徳
4／2　本大会1回戦　7対12　関東一

各大会、各球場に応援に来ていただいたOBの皆様ありがとうございました。

今年も7月7日（土）川崎日航ホテルで野球部のOB会を開催致します。一人でも多くのOBの皆様のご参加をお待ちしております。

## ■テニス部

平成29年度のテニス部は、3年生の引退まで約40名で活動しました。新1年生の入部は5人と少数でしたが、自発的に向上しようとする1年生の姿が見られます。2年生と切磋琢磨し将来レギュラー争いに加わってくれたらと思います。

昨年度の都大会個人戦・団体戦ともに結果は振るいませんでした。3年生は大型学年であった為、レギュラーとして試合に出られる生徒は限られました。しかし、選手同士で刺激しあい、互いが互いを成長させられる関係性は築けたように思います。私個人としては初めての女子部員も指導させて頂き、貴重な経験となりました。卒業文集を読んでみると、それぞれ何かを学び引退していった様です。

今年度も4月中旬から個人戦、5月中旬には団体戦が控えています。過去最高の結果が出せるよう、一人ひとりの心身の成長を促していきます。今後とも皆様の応援、よろしくお願いいたします。

## ■卓球部

イベントホールで週5日練習に励んでいました。今年の部員は3年が2人、2年生が6人（1人は女子）、1年生が1人の合計9人で活動していました。

今年は東京都でベスト32を目標に日々の練習に取り組んでいきました。練習メニューを大幅に変えて、最新の卓球理論を取り入れ、きちんとしたフォームで打球できるようになってきています。部員全員がやるからには勝ちたい、強くなりたいという向上心にあふれていています。また練習メニューを生徒たち自身で改良するなどの工夫、個人の課題を見つけられたことが、大変喜ばしい成長です。

これからも、卓球を通して部員たちが成長して、よりよい人生を歩んでいってほしいと願っています。

今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

## ■バドミントン部

平成29年度は、3年生11名（男子11名、女子4名）・2年生10名（男子8名・女子2名）・1年生14名（男子12名・女子2名）の合計35名で活動してきました。コート2面という限られた環境の中で、普段はノックやトレーニング、ゲーム練習等、練習メニューを工夫し皆で協力して活動しています。今年度で、女子が団体戦に出場し始めてから4年目となりました。近年、東京都全体のバドミントンのレベルが年々上がってきており、3年生の引退試合の団体戦では例年通り勝ち進むことができませんでした。男女ともに1回戦で敗れてはしまいましたが、シングルス、ダブルスの試合は接戦でした。

2年生が主体になってからも部長・副部長が中心となり、懸命に練習に励んでいます。高校1年の4月からバドミントンを始めた初心者の子も、次第に早いスマッシュを打てるようになり、これからの成長も楽

しみです。

また、大田区総合選手権大会（春・秋・冬）では、個人戦男子ダブルス4部優勝、準優勝、3位入賞などの成績を収めることができました。今後もより上を目指して、部員一同頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

## ■陸上競技部

3年生12名、2年生4名、1年生6名のクラブです。

短距離・中長距離・ハードル・走幅跳に分かれ、日々自己記録更新を目指し練習をしています。また、チーム競技ではリレー・駅伝にも取り組んでいます。昨年度は、東京都支部予選会や支部競技会、全国高等学校駅伝大会東京都予選、東京都支部駅伝といった高体連の大会の他に、大田区陸上競技大会や東京都私立学校陸上競技選手権、六郷グリーン駅伝、などの大会に出場しました。

110mH、走高跳では東京都大会への出場を決めました。選手としてだけではなく、高体連の大会では競技者係として大会運営のサポートも行っています。今年度も、1名でも多く東京都大会で勝負することのできる選手を増やし、また、リレーなどのチーム競技でも東京都大会へ出場できるように頑張ります。今後とも応援をお願い致します。

## ■柔道部

平成29年度は1年生6名、2年生2名、3年生2名、そのほとんどが初心者であり上級生も経験者が少ない状態でのスタートとなりました。4月、5月に行われる関東大会予選、インターハイ予選は上級生のけがなどの不調もありまともに団体戦が組める状況ではありませんでした。まさに一からの出直しとなりました。

夏を乗り越え、初心者の1年生もだんだんと練習試合などを経験でき、10月の大田区秋季大会では無段者の部ではありますが優勝、準優勝を勝ち取ることができました。今年度は目立った成績が残せませんでしたが、1年生のやる気は十分です。来年度新入生を迎え、着実と成長している在校生とともに活躍できる試合をしていきたいと思います。今後とも応援よろしくお願いいたします。

## ■剣道部

昨年度卒業した大所帯の世代は、大会などで結果を残していました。それを引き継いで結果を残すことができるかが今年度のテーマの1つでした。

部員は自分たちで互いに一つ一つの動作をチェックしたり、卒業生や他の教職員などからアドバイスをもらったりしながら、一歩一歩着実に力を伸ばしていきました。その結果、今年も3年生がIH予選の個人の部で支部の大会を通過し、東京都予選に出場を果たしました。

その後も部員たちは練習を重ねました。入学時は未経験だった2年生も冬の段審査で二段昇段を果たしています。

来年度もまた一人一人の部員が成長できる環境を作りたいと思います。応援のほどよろしくお願いします。

## ■男子バレーボール部

今年は、1年生8名、2年生12名（2名マネージャー）合計22名という大所帯となりました。2年ぶりの関東大会を狙いましたが、あと一歩の所で届かずベスト16位という結果になりました。新チームに3年生が一人加わり、春高予選に臨みましたが、ベスト16位になるのが精一杯という結果となりました。

また、7月下旬に行われた関東私学大会は新チームで臨み、Bリーグで3位という結果を残すことができました。チーム力は安定しないまま、4月を迎えることになりましたが、選手一同がむしゃらで頑張っていきますので応援の程よろしくお願いいたします。

今年も、平均身長がそれほど高いわけでもないので、拾ってつなぐ粘りのバレーを追求しています。

私学大会では11年連続でベスト16に入ることができ、その結果7月には関東私学大会に11年連続出場が決まりました。これに満足することなくこれからも精進していきますので応援の程よろしくお願い致します。

また、退任されました山下先生にも引き続きチームを見ていただいています。OBOGの方々、練習への参加も心よりお待ちしております。

男子バレーボール部のブログです。よかったら見てください。

http://blog.goo.ne.jp/ojimadesu/

昨年度の結果は以下の通りです。

関東予選　都ベスト　16位
私学関東大会Bブロック　3位
都私学大会夏　都ベスト　16位
都全日本選手権大会　ベスト　16位
都新人大会　都ベスト　16位
都私学大会冬　ベスト　16位
都新人大会決勝大会　都ベスト　16位

【顧問】尾島　覚・本橋　拓也

## ■男子バスケットボール部

3年生4名，2年生8名、1年生8名、マネージャー1名の21名で活動しています。声を掛け合い切磋琢磨し取り組んでいます。新チームになり私学7支部大会や新人戦支部大会ではまずまずの結果が出ました。今後とも応援よろしくお願いします。

今年度の成績は以下の通りです。

▼春季大会　兼　関東大会東京都予選
1回戦
大森学園高校　58－33　淑徳巣鴨高校
2回戦
大森学園高校　45－68　都立田園調布高校

▼東京都高等学校総合体育大会
1回戦
大森学園高校　50－60　豊島学院高校

▼私学第7支部親善大会　4位入賞

▼新人戦支部大会
1回戦　シード
2回戦
大森学園高校　110－31　都立第一商業高校
3回戦
大森学園高校　81－61　都立雪谷高校
4回戦
大森学園高校　36－111　日本学園高校

## ■女子バスケットボール部

同好会～部を経て4年目になりますが戦績は未だ1期生の残した夏季大会ブロック3位入賞、1・2期生の残した3回戦進出以上の良い記録が出ていません。3回戦の壁が厚いですが今年度こそ3回戦突破を果たすため引き続き練習に励んでいきます。そして現在のメインチームは4期生、30年度の入学生で早くも6期生になります。学校に来た際は懸命に汗を流し練習に取り組んでいる女子部員達を観に来てください。

（顧問　佐藤 緑子・高着 隆）

【部員：23名】
3年生…11名（マネージャー4名）
2年生…5名（マネージャー1名）
1年生…7名（マネージャー2名）

## ■チアリーディング同好会

昨年度、チアリーディング同好会は1年生8名で活動してきました。お手本となる先輩がいないなか、7月の野球応援と9月の学園祭でのダンス発表、さらには11月の入試説明会でもダンスを披露しました。新入部員だけでの再出発ということで、なかなか思うように活動ができないところもありましたが、行事の前には練習日や練習時間を増やし、その成果を本番できちんと出せたと思います。

今年度は部員数を増やすことはもちろんですが、野球応援や学園祭でのダンスの完成度が高くなるよう、トレーニングや練習に励みたいと思っています。まだまだ部員数が少ない同好会ですが、一生懸命活動しています。今年度もさまざまな活動に前向きに取り組んでいきたいです。精一杯頑張りますので、応援よろしくお願いいたします。

# 文化部

## ■パソコン研究部

しばらくパソコン研究部の顧問から離れ、昨年度から出戻りで指導を任されています。3年引退後新体制になったのですが、普通科、特に特進コースの生徒などは2年の後半から受験勉強モードになってしまいなかなか活動に参加できなくなり、ほとんど1年生ばかりといった状態になってしまいました。

逆にその分新しいことを始めてみよう、とスマートフォンゲームの開発にも使われるUnity（ユニティ）の勉強を生徒と一緒にしたり、生徒のパソコンにも新しいバージョンの開発環境を導入したり、といったことを始めています。普段の放課後活動以外としては、夏休みに小学校で行われるサマースクールで簡単なプログラミング教

室を行い、生徒にも手伝ってもらっています。以前はボランティア活動などでも慣れないとモジモジしてしまう内気な生徒も見られましたが、最近では最初から堂々と対応することのできる一年生もおり、頼もしい限りです。

## ■放送・演劇同好会

今年初めて「NHK杯全国高校放送コンテスト」の「アナウンス部門」に3名の生徒が出場しました。2年生1名と1年生2名がエントリーし、残念ながら入賞はできませんでしたが、良い経験になったのではないでしょうか。何気ない日常のある一部分を切り取り、正確に情景が想像できるように相手に伝える。なかなか意識しないとできません。制限時間の中で、上手に綺麗な日本語で伝える。これってコミュニケーション能力UPですよ。朗読やラジオ・テレビなどの部門もあります。同好会員でなくても、興味があれば参加してもらいたいものです。面接力もUPしますよ。秋の大会も2名生が2名参加しました。

（顧問　増田 宇）

## ■ロボット研究部

もりこう会の皆様、こんにちは。私が昨年度よりロボ研の顧問をしております、機械科　金田と申します、昨年1年間の活動ですが、夏の大会は台風の為、中止（辞退）。となりましたが、なんとあのNHKのロボットコンテスト（ロボコン）を会場で生で見ることができました（感動・興奮）でした、会場も大田区体育館と近く、毎年日本で開催しているのかと思っていたら、毎年国を変えて行っているのです、こんど日本で行うのも何年も後です、それを考えるととてもラッキーだったと思います。9月の学園祭は実習棟で楽しく行いました（成功）。部員数が少ない部ですが、これからも楽しく、頑張って行きたいと思っています。

## ■囲碁将棋部

平成二十九年度は一年生が一名、二年生が三名、三年生が一名と計五名で活動してきました。

主な大会は、将棋部門では春と秋に行われる全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選の個人戦に全員がエントリーしています。一年生は初心者で、駒の進め方を知っているくらいでしたが、夏休みから詰将棋を始めるとめきめき上達し始め、大会でも何回か勝てるようになってきました。また、二年生には有段者がいて、Bクラス（初段～二段クラス）に参加して四勝一敗となり、惜しくも入賞を逃しました。

囲碁将棋部では挨拶や先輩、後輩の上下関係などを理解させて社会でも通用する人になれるように指導していきたいと思っています。

これからも、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

## ■鉄道研究部

平成二十九年度は3年生　五名、二年生五名、一年生　三名の合計十三名の部員で活動しました。また、新顧問として国語科教諭の須藤　健先生が加わりました。おもな活動内容として学園祭に向けた大型レイアウト製作やNゲージ車両製作、部員が持ち寄っての鉄道模型運転会など、週三回の活動を積極的に行い、とくに毎年参加している全国高等学校鉄道模型コンテストでは夏の上越国境を製作、見事『ベストオブ・リアリティ賞』を受賞する事が出来ました。今後も上位入賞を目指して部員一同努力してまいります。また、今回の夏合宿では久しぶりに東北仙台・三陸釜石などを周遊し、SL銀河号に乗車（新花巻～釜石）、三陸鉄道・南リアス線（釜石～盛）にも乗車。盛駅では三陸鉄道の社員から震災直後の貴重な話を聞くことができた。毎年合宿を楽しみに参加してくれるOBも今年も参加してくれました。今年度の学園祭でも大型レイアウトによる運転会や生徒鉄道写真展示・鉄道グッズの展示発表などを中心に行います。是非今年も、OBの皆様の来校を楽しみにしております。また、第十回全国高校生鉄道模型コンテスト・モジュール部門に参加します。

応援よろしくお願いいたします。写真は「三陸鉄道・盛駅」にて「奇跡の車両」と一緒に撮ったものです。

（顧問　椚山 良一）

## ■自動車部

●WORLD GREEN CHALLENGE 2017 ソーラーカーラリー

8月8日～11日に秋田県大潟村ソーラースポーツラインにて行われたソーラーカーレースに、出場しました。24時間を3日間に分け、走行距離を競い合う過酷な競技でマシン・人間ともに耐久性が求められるレースです。今年は、台風の影響で1日目・2日目とも雨が降りほとんど周回を重ねる

ことができませんでした。そんな中、1日目は雨の中で我慢の走りで総合2位、しかし2日目はトラブルがあり総合4位となってしまった。3日目は天候に恵まれ、トラブルもなく順調に走行できました。24周600kmを走行し総合3位で表彰台になんとかあがることができました。

【記録】
1日目…6周　2日目…7周
3日目…11周　合計…24周　総合3位
大会ホームページ　http://www.wgc.or.jp/

●Honda エコ マイレッジ チャレンジ 2017 第37回全国大会

9月30日・10月1日に栃木県のツインリンクもてぎサーキットで行われたエコマイレッジチャレンジ『君はガソリン1リットルで地球1周できるか?』に出場しました。今回の大会で学校として31回目の参加になります。今年も1000km／ℓを目標に挑戦しました。1日目に行われた練習走行ではA号車が1000km／ℓを超える記録を出し、決勝に期待がかかりましたが、決勝では時間配分を誤りタイムオーバーに。また、本年度より製作を始めた新車両、夏休みより製作をはじめレース前日まで作業し完成しましたC号車が667km／ℓで35位が最上位となりました。まだまだのびしろがあるのでさらなる活躍を見せたいと思います。

【記録】
グループⅡ　高校生クラス　138台中
A号車（キャブレータ）
895km／ℓ タイムオーバー
B号車（インジェクション）
481km／ℓ 47位
C号車（インジェクション）
667km／ℓ 35位
大会ホームページ
http://www.honda.co.jp/Racing/emc/

今年度はソーラーカー・エコマイレッジともに過去の記録を超えたいと思います。応援いただいた皆さまにお礼申し上げます、引き続きよろしくお願いします。

## ■模型部

模型部は今年度も、前年同様新入生に恵まれ、和気あいあいと活動できました。顧問も二年目となり、夏休みはクラスの受験生の指導の傍ら、数十年振りに自らの作品制作を行うなど、先生と生徒、学年やコースの違いに関係なく全員で協力してきました。

個人の作品に加えて、今年度の生徒たちが最も力を入れて取り組んだのは、学園祭で発表したジオラマです。数隻の軍艦が停泊する港の背後に、紙粘土と新聞紙で大きな山脈を作り、それを覆う緑の景色をリアルに再現しました。夏休み中から準備を開始し、学園祭の前日まで、話し合いをしながら細部まで、全員が納得のいくまで長い時間をかけて完成させ、大きな達成感を感じていました。

このような活動で得たものを活かし、ものづくりの全国大会で上位入賞したり、有名企業への就職や大学進学などで結果を残した三年生もおりますので、来年度以降の生徒さんにも続いてもらいたいと思っています。

## ■美術工芸部

今年度から美術工芸部として活動しました。オリジナルキャラクターや、イラストなどそれぞれの好きなものを描き、先輩と後輩がお互いの絵を見て話し合いながら、楽しく過ごしていました。中央展には七宝焼きで描いた絵と、毛糸を用いて描いた作品を出品しました。他校の先生方からもアドバイスを頂く機会があり作品作りの励みとなったようです。

また外部講師を招いて「タンブラー作り」を教わり、普段とは違うデザインを学び個性豊かな作品を完成させました。

二学期にはオーストラリアからの留学生に七宝焼きを体験してもらい、一生懸命に英語で教える姿が見られました。留学生の自由な発想は、素晴らしく生徒たちも勉強になったようです。来年度もたくさんのことに挑戦させたいと思います。

## ■書道同好会

本同好会は7人という少ない部員数で黙々と活動しています。活動日数は週2～3日に抑えていますので、生徒たちは勉学を初めとする諸活動にも勤しんでいます。高校生にもなると多忙を極めますから、同好会の活動時間や内容にも自ずと工夫が求められます。そんな状況で我々が心がけたのは、「枚数を制限する」ことでした。1回の練習で使える半切（縦136cm横35cmの書道用紙）を1人あたり3枚に制限したのです。そうすると、部員個々が「考えて書く」ように成長しました。更に、1枚に対する集中力が飛躍的に高まったのです。もちろん、短い時間と少ない枚数でも上達するような甘い世界ではないことは理解しています。しかし試験的に試みたこの方法でも子供たちの技術は明らかに向上しましたので、暫くはこのやり方を継続してみようと考えています。そしてこの練習法による＋αの効果が他の様々な活動にも生かされるよう期待するばかりです。

（顧問　蓑毛　伸哉）

## ■ブラスバンド部

平成29年度は、2年生11名に新入生11名を加えた合計22名で活動をスタートしました。昨年度の活動の様子を簡単に紹介させていただきます。

新体制での最初の大きな行事は5月末、学校のすぐ近くの諏訪神社のお祭りでの演奏でした。6月は体育祭で演奏し、7月は部員たちも毎年楽しみにしている野球部の応援に参加したり、大森町商店街のお祭りで演奏させていただきました。その後、8月の吹奏楽コンクール、9月の学園祭、10・11月の地域イベントで演奏し、12月からは、ブラスバンド部最大の行事である定期演奏会に向け本格的に練習・準備を行いました。

昨年度もたくさんの演奏の機会をいただき、ブラスバンド部の活動を通じて部員たちは様々な年代・職業の方々との関わりの中で多くのことを学ぶことができました。また、3月25日に開催された「第5回定期演奏会」では、多くのみなさまにお越しいただき本当にありがとうございました。たくさんの方がブラスバンド部の活動を支えてくださったことに感謝しております。今年度も、皆さまに喜んでいただける演奏ができるよう、練習に励みたいと思います。

（顧問　石川　和弘）

## ■生徒会活動報告

今年度は、「生徒のための生徒会」ということを考え一年間活動してきました。さまざまなボランティア活動に多くの生徒が参加し、生徒会役員はその生徒たちが活動しやすく、達成感を得られるようにサポートをしようと心がけていました。

自分自身に与えられた仕事をしながら、参加してくれた生徒たちのために行動するということは難しく、思うようにできないこともたくさんありましたが、役員一人ひとりが自覚を持ち、努力し、挑戦している姿に成長が感じられました。

三学期の会議では、「大森学園をさらに良くしよう」という考えに基づき、学校を良くするとはどのような事であるかを、生徒側、教員側それぞれの立場に立って考え、話し合いを続けています。思う通りに物事を進めていくことの難しさを実感し、学びながら、一歩ずつ前に進んでいけるように努力してほしいと思います。

## ■車いすボランティア

### ～車いす寄贈実績928台～

私たち車いすメンテナンスグループは、大きく分けて2つの活動をしています。一つ目は老人ホームでの車いすの修理です。入居者が普段使っている車いすに不具合がないかをチェックしたり、タイヤに空気を入れたり、必要な場合は修理したりという活動を行っています。二つ目は空飛ぶ車いすと呼ばれる活動です。使われなくなった車いすを修理して被災地や東南アジアなどの地域へ贈り、必要としている人たちに届けています。

老人ホームへは月に1度ボランティアに行き、毎回全部の車いすの空気チェックに加え、パンク修理やブレーキ調整などのメンテナンスも行いました。さらに「空飛ぶ車いす」活動では週2回、車いすを引き取り、修理・再生し，海外へ贈っています。累計では928台の車いすを贈ることができました。

本年度は1年生が2人入部しました。これからもこの活動を長く続けていけるように頑張っていきたいと思います。

## 空飛ぶ車いす寄贈実績　(平成30年3月現在)

| 年度 | 合計 | アジア | | | | | | | | | | | | | | 中南米 | | アフリカ | ヨーロッパ | オセアニア | 日本 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | スリランカ | 韓国 | タイ | インドネシア | モンゴル | 台湾 | マレーシア | ネパール | フィリピン | シンガポール | ベトナム | イラン | ミャンマー | パラオ | ペルー | ホンジュラス | 南アフリカ | クロアチア | サモア | 東北被災地 |
| 12 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 22 | | 22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 25 | 6 | 16 | | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 53 | | 25 | 2 | 15 | 6 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | 89 | 39 | 22 | 1 | 4 | 4 | 5 | 8 | | | | | | | | 4 | | 2 | | | |
| 17 | 69 | 31 | 11 | 4 | 11 | 2 | 5 | 4 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 18 | 102 | 51 | 20 | 1 | 5 | 12 | 4 | | 2 | | 3 | 2 | | | | | 2 | | | | |
| 19 | 58 | 25 | 20 | 1 | 5 | | 1 | 1 | 2 | | | | | 1 | | | 2 | | | | |
| 20 | 53 | | 26 | 20 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | 38 | 6 | 2 | 26 | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 22 | 32 | | 3 | 28 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 23 | 63 | 8 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 54 |
| 24 | 75 | 27 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 48 |
| 25 | 71 | 40 | | 31 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | 35 | 20 | | | | | | | | 15 | | | | | | | | | | | |
| 27 | 42 | 32 | | | | | | | | 10 | | | | | | | | | | | |
| 28 | 64 | 13 | | 31 | | | | | | | | | | | | | | | | 20 | |
| 29 | 35 | 15 | | | | | | | | | | | | | 20 | | | | | | |
| 30 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合計 | 928 | 313 | 167 | 145 | 51 | 26 | 22 | 14 | 4 | 25 | 3 | 2 | 1 | 1 | 20 | 4 | 4 | 2 | 2 | 20 | 102 |

## 車いすメンテナンスのはじまりと卒業生の活動

平成十四年三月電気科卒業
森工車椅子会　会長　渡辺亮

大森学園の車いすボランティア活動のはじまりは、平成九年東京都よりボランティア推進協力校に登録された事からです。おもちゃの病院と共に昨年（平成二十九年）で二十周年を迎えました。活動の名称は「生徒会ボランティア活動車いすメンテナンス」で学校の近くにある大田区立特別養護老人ホーム大森（当時）の車いすメンテナンスが活動のはじまりでした。当時は生徒会活動の一環でしたので生徒会役員が中心で活動していましたが、後に部活の部員募集の時に部活と同じ形で生徒募集をするようになりました。その後、平成十二年より海外の車いすが不足している地域へ日本で使われなくなった車いすを整備し贈る活動である「空飛ぶ車いす」がはじまりました。

「森工車椅子会」は平成十四年十月に生徒会ボランティア活動車いすメンテナンスのOB会として発足し、昨年十月で十五周年を迎えました。結成のきっかけは空飛ぶ車いす活動で平成十四年三月（日韓共催のFIFAワールドカップがあった年）に当時の大森工業高校生徒が韓国へ訪問し車いすメンテナンスを行った際の参加したメンバーが中心となり結成しました。当初四月の時点では「大森工業高校車椅子卒業生連絡会」と言う名称で在校生の行事がある際に協力する連絡会でしたが、集まる卒業生が多かった為、十月にOB会として発足しました。会の名前は当初「大森工業高校卒業生車椅子会」にする予定でしたが、名前が長いので略称の「森工車椅子会」が会の名前になりました。発足当初は在校生のサポート団体でしたが、平成十五年五月から大田区立特別養護老人ホーム蒲田で活動を開始し今年の五月で活動開始十五周年になりました。参加人数が多い時代は他の施設でも活動を行っていましたが、年月が経つと仕事や家庭等の事情で参加人数が少なくなり、現在は蒲田の活動を中心に年間五～六回で一回の活動に三～五名程度で活動を行う他、在校生行事のサポートも行っています。また、昨年より大田区社会福祉協議会よりお誘いがあり、簡単な車いすの清掃・点検・空気入れ等を中心とした「ボランティア入門講座」を開催し、OB・OG会に加えて大田区内のボランティア団体としても活動を行っています。

★同窓会のご支援により森工車椅子会HPを開設しております。

平成30年２月 老人ホーム活動

平成29年12月 ボランティア入門講座

海外より研修に来た研修生活動見学
旧校舎教室（平成13年8月）

空飛ぶ車いす韓国初訪問 韓国大田広域市（平成14年3月）

業者の方による車いすメンテナンス講習 旧校舎理科室（平成12年頃）

平成27年7月 老人ホーム活動

森工車椅子会オリジナル前掛け

## 平成29年度 もりこう会 決算書
（自:平成29年4月1日～至:平成30年3月31日）

本誌では掲載しております

## 平成29年度 潮の光奨学基金寄付金
（敬称略）

## 平成29年度　もりこう会寄付金（敬称略）

本誌では掲載しております

# キャリアセミナー開催

毎年、二学年を対象に活躍されている先輩方を母校にお招きし普通科・工業科各クラス対象に進路選択のアドバイスや貴重な経験談などを約四十分間に亘って講演をしていただきました。今回は平成二十九年十一月八日（水）七時間目のホームルームに九名の卒業生に出席していただき講演を行いました。

写真は各クラス内の様子と控室での一コマです。

（事務局より）

## 卒業生便り

## キャリアセミナーに参加して

平成五年　情報技術科卒業　**矢内英彦**

私は畑澤校長をはじめとする大森学園の依頼で、平成二十九年十一月のキャリアセミナーに講師として工業科（石川先生のクラス）を担当しました。「自己紹介（現在の仕事）、学生時代のエピソード、過去の体験談、進路について、社会での心構え、質疑応答」の流れで講義をさせてもらいました。

私は個人事業主として、主に海外進出（世界展開）している日本の製造業などに、情報技術やデザインを支援する仕事をしてい

ます。マルチメディア制作から技術文書の作成、グローバルの情報を管理・運用するためのシステム導入支援と構築まで、幅広い業務を手がけています。

現在はこのような仕事をしておりますが、学校生活については「工業に特色があったこと」「男子校だったこと」「バレーボール部で活動したこと（最終的に退部）」「高校二年の秋に椎間板ヘルニアの手術をして一カ月ぐらい学校を休んだこと」「学園祭には私目当てに女子が来てくれた」などの話しをしました。

私は高校卒業後、大手企業に就職したものの、転職を繰り返した失敗談を伝えました。仕事を通じていろいろな人を見てきましたが、四年制大学を出た人でも仕事が円滑に進まない人がたくさんいます。大森学園の生徒の皆さんには、進路について真剣に考え、学校生活同様「約束・ルールを守り、困ったことがあれば相談する、目標に向かって一生懸命取り組む」といった当たり前のことを当たり前にやってもらいたいです。この本質は、基本、基礎という土台が、しっかり固まっているということです。多くの生徒がメモを取りながら熱心に聞いていました。当時の私達は先生の話しをきちんと聞いていなかった気がします。質疑応答では、勉強や学校のこと、私の仕事、好きな漫画など、幅広く質問してくれました。今年も六月に「同窓会総会・懇親会」があります。私も参加する予定です。卒業生の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

## 卒業生の広場

母校、学園祭開催に併せて、同窓会（もりこう会）も毎年「卒業生の広場」を開設し来校された卒業生の語らいの場所として利用されております。平成二十九年度の学園祭は九月二十二日（金）・二十三日（土）の二日間で行われ卒業生の広場を利用した卒業生も延べ八十名の方々が訪れてくれました。

もりこう会のPR活動を兼ね、総会・懇親会開催報告や活躍している卒業生の紹介などをパネル展示し、来場された卒業生にはドリンクのサービスも行っております。これからも多くの卒業生に来ていただけるように、企画を検討して行きたいと思います。

（事務局より）

## もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力のお願いについて

会長　大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。
本年もここに関係各位のご協力により、会報 48 号をお手元にお届けすることが出来ました。
本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催等など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。
これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいる所存です。今後とも、よろしくお願い申し上げます。
さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。
就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

# ★ 卒業生の皆様へ ★

## 平成30年度 もりこう会
## 総会・落語会・懇親会のお知らせ

- 日時／**6月30日 土曜日**
- 会場／母校　大森学園高等学校
  (駐車場・駐輪場はありません)
- 受付／午後3時
- 総会／開会 午後3時30分　終了 4時40分

**落語会**

★開 演
午後5時

★出 演
古今亭 始

- 懇親会(食事会)／開宴 午後6時　終了 午後7時30分

お食事・お飲み物・スイーツ類をご用意しております
(お飲み物はソフトドリンクです)

**皆様へお願い**
出席の方で電子メールを使える方はお手数ですが、氏名・卒年・担任の先生の名前と出席の旨を同窓会HPのメール**info@moriko-kai.jp**までお知らせ下さい。(電子メールを使えない方は連絡の必要はありません)

**～多くの方々のご参加をお待ちしております～**

## 平成30年度「学園祭」のお知らせ

- 開催日　9/22(土)・9/23(日・秋分の日)の2日間開催します。
- 時　間　午前9時～午後3時(両日)
- 会　場　母校　大森学園高等学校

同窓会では卒業生の懇親の場として「卒業生の広場」を設ける予定です。
お越しの際には是非お立ち寄り下さい。
(校舎及び近隣には駐車場・駐輪場はありません)